

第 3 章 課程・専攻、履修方法等

第 1 4 条 本大学院の教育課程・専攻別開講科目は、別表のとおりとする。

第 1 5 条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、2 年以上在学し、所定の授業科目について 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1 年以上在学すれば足りるものとする。また、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者については標準修業年限を超えて課程の修学を行うことができる。

- 2 前項の場合において当該課程の目的に応じ適当と認められるときは特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。
- 3 教育職員免許状を得ようとするものは、第 1 項の規定に依るものの外教育職員免許法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。本大学院で取得できる免許状は次のとおりとする。

専攻等名	免許状の種類	免許教科
教育学専攻	高等学校教諭専修免許状	地理歴史 公民 職業指導 情報
	中学校教諭専修免許状	社会 職業指導
	小学校教諭専修免許状	
	幼稚園教諭専修免許状	
英語英文学教育専攻	高等学校教諭専修免許状	英語
	中学校教諭専修免許状	英語
技術教育専攻	中学校教諭専修免許状	技術

- 4 修士課程（博士前期課程）の在学年限は5年、博士後期課程の在学年限は6年とし、これを超えることはできない。
- 5 修士課程（博士前期課程）に入学を希望する者が、職業を有している等の事情により、第2条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、大学院委員会の議を経て、長期履修学生として、委員長はその計画的な履修を認めることができる。
長期履修学生に関する必要な事項は別に定める。

第16条 博士課程の修了の要件は、5年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし在学期間に関しては優れた研究業績を上げた者については専攻別委員会が認めた場合に限り、この課程に3年（前期課程に2年以上在学し、当該課程修了者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前条第1項ただし書前半の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは、「前期課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（前期課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。
- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第70条の2の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし在学期間に関しては優れ

た研究業績を上げた者については専攻別委員会が認めた場合に限り、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

第17条 学生は、その履修しようとする授業科目を指定の期日までに指導教員を通じ学長に届出なければならない。

第18条 試験・審査は、科目試験、学位論文審査及び最終試験とする。

2 科目試験は、その授業科目の講義の終了した学期末に行う。

第19条 学位論文又は所定の研究成果の審査は、専攻別委員会が選出した学位論文審査委員がこれを行う。

2 学位論文又は所定の研究成果提出の時期は、その都度公示する。

第20条 最終試験は、所定の単位を修得し学位論文又は所定の研究成果を提出した者につき、その論文又は研究成果を中心として筆記又は口頭をもって、前条の学位論文審査委員がこれを行う。

第21条 単位の修得、学位論文又は所定の研究成果及び最終試験の合格又は不合格は、大学院委員会において決定する。

第22条 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文又は所定の研究成果の審査及び最終試験に合格した者に対しては、その課程に応じ修士又は博士の学位を授与する。